

荻原 隆教授のご退職にあたって

経済学部長 野 村 益 夫

荻原 隆先生は、2020 年 3 月末をもって定年退職されました。先生は、37 年もの長きにわたって、本学ならびに経済学部の発展のため尽力され貢献なされてきました。ここに、本学と経済学部を代表して心より先生への感謝の意を表します。

先生は早稲田大学第一政治経済学部卒業、同大大学院政治学研究科博士課程を修了、1983 年 4 月に本学の専任講師に着任、1986 年 4 月に助教授、1993 年 4 月に教授へと昇任して、2020 年 3 月に退職されました。専攻は近代日本政治思想で主著に『中村敬宇と明治啓蒙思想』（1984）、政治学博士授与論文となった『中村敬宇研究—明治啓蒙思想と理想主義』（1990）、『天賦人権論と功利主義—小野梓の政治思想』（1996）、『日本における保守主義はいかにして可能か—志賀重昂を例に』（2016）があります。これらの業績は丸山政治学の「作為（意志）」を「自然」の側から批判し、両者を統一和解させようという方法的視点で書かれており、日本精神史にとくにその保守主義研究において飛躍的な展開を目指したものです。丸山政治学ではなく、津田史学（津田左右吉）の視点から、保守主義を研究しています。先生によると、津田は丹念に文献を比較検討し、厳密に考証し優れた論理構成によって日本の伝統を深く理解した最初の保守主義者でした。先生の著書に関しては、簡潔性を重視した文章は大きな特徴になっていると思います。先生は、文章を校正するのに無駄な表現を省くなどして簡潔な文章を書くように心がけています。

また、学内行政では図書館長・経済学部長・入試担当常任理事を歴任され、指導力を発揮しました。経済学部長として規模の大きい学部教授会を、メンバーの意見を良く聞いて運営しました。さらに入試担当常任理事として入試全体が良くなり本学偏差値が向上するように尽力されました。発言と文章は特徴があり、政治理論の授業でロールズの正義論を講義した際のビデオが残っていますが、これで初めてロールズが分かったと言う教員がいました。幅広い教養を身に着け、突破力が必要とされる教授会議事等に対しては取りまとめるための準備を丁寧に行い、委員会ではメンバーの意見を尊重して決断されました。また、本学の教育では、政治理論や政治学に関する授業を担当されていました。卒業生によると、ディスカッションを用いた授業は、大きな特徴があります。この授業は学生の視野を大きく広げ、「自分で考える」ことを実感させるもので、さらに学ぶことや新しい知識を得ることの楽しさを教えるものでした。

荻原先生は、2020 年 6 月に名誉教授になられました。先生は、これまで、一貫して近代日本政治思想の研究を行われてきました。また、教育では、政治理論や政治学に関する授業を担当されていました。これからも、ご研究を発展され、継続されると聞いています。今後も、先生がますますご健勝でご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。